

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

民權
錦繡

8003

5

經濟學部
研究室
5
1292



朱書

中萱嘉助署傳

竹内泰信

今ヲ去ル百九十三年前
 吾安筑ニ部凶作ニノ
 八勿論吾平食ニ充ルニ
 ハニ饑饉ニ陷ラントス
 然ルニ地頭ハ
 年々新法ヲ設ケ田租ヲ
 増加シ農氏ハ
 穀類ヲ耕作シテ穀類ヲ
 食スルヲ能ハ
 カルニ至ル其苛法ノ一
 二ヲ擧シハ踏
 磨ト云フ法ヲ設ケ上納
 米ヲ踏磨セテ
 秒ト稱トテ去リ粉一俵
 米ニシテ三斗
 立斛ノ挽アル俵ヲ納メ
 サセ又地租高



經濟

39078



二十分ノ一大豆ヲ納ムルノ法ヲ立其
半高ヲ大豆相場ニテ全納ニシ一口ニ
云ハハ一俵ノ代リニ大豆一俵ヲ取
ルナリ又甲府江戸ノ拂ヒ米ヲ年毎ニ
増加シテ之ヲ命シ具上差米ト云フ者
ヲ一軒宛加ヘケセ南ハ詭方郡全沢駅
東ハ小縣郡浦整駅迄運輸カセ若シ馬
ナリレテ能ハサル者ハ一駄ニ付立
百七十文ノ賃銀ヲ出サセ又諸役所初
メ侍以上ノ家々ハ小人ト云フ奴僕ヲ
抱ヘ給金ヲ切米ニテ与ヘ其不足ナリ
トシテ費用ノ半ヲ農民ニ課シテ出金

ナカシム奇酷ノ法ヲ設ケ人民ヲ渾
ヌル丁月ニ年々甚シキヲ以テ百姓等
生活ニ苦シニ粉糠ヲ食ヌルニ至ルト
云フ其他ハ推シテ知ルヘキ也茲ニ安
曇郡長尾組中蓋村ニ多田嘉助ト云フ
者有リ此艱苦ヲ見テ慷慨悲憤自ラ止
ム能ハスシテ秘ニ全志ヲ暮リ地頭
ヘ訴ル所アラントス其民権家ノ面々
ハ楡村小穴善兵工南大妻村小松作兵
衛水室村水室半之助三清村吉沢吉之
助浅間村不詳善七岡田町村橋瓜嘉助
熱田光村姓不詳與兵工梶海渡村姓不

詳惣左衛門部村姓不詳全兵工等ノ
教民ナリ頃ハ同年十月ノ始メ多田嘉
助ノ宅ニ會シ各々持論ヲ吐露シ議ヲ
立ケ條ニ次シ教通ノ願書ヲ認メ同月
十四日ヲ期シ水登家ノ家老役ニ上申
セントス然ルニ當時ノ政法庶人ニ
政令ニ背クノ願書ヲ出シ或ハ是ヲ諱
弁スル等ノ者ハ家族ニ至ル迄死刑ニ
處セラル、法ナルヲ以テ百姓等比奉
アルヲ聞テ謂ラク何ヲ嘉助氏始メ具
他ノ教人ヲ死地ニ陥イシ傍觀スルノ
理アラニヤ我等モ共ニ訴訟ニ加勢シ

テ死センノミト茲ヲ以テ各期セス
會シ十四日ノ朝諸氏ノ出ルヲ待テ隨
從スル者陸續トノ絶ヘス午後第二時
頃松本ニ至ル中ハ一萬人ニ毛ントス
諸氏制シテ止ムルモ肯シテ從テ城
下ニ入ル者六九口ヨリ六百五人伊勢
所口ヨリ四百十人山家口ヨリ七百人
ナリト云フ餘ハ皆沓摩川原勢高辺ニ
群集シテ人氣沸騰ノ勢拔ヲナス
傍城下ニ入りタル百姓等ハ暇上土辺
ニ躊躇シテ異口同音ニ呼テ曰ク御領
分ノ百姓共近年ノ御新法ニ苦シニ生

治ヲ遂ル能ハス依テ身命ヲ抛テ御殿
 申度儀有之矣何卒御家老様ノ御慈悲
 ヲ以テ御殿様ノ上聞ニ達シ百生共ノ
 餓死ヲ御助ケ被下シト聲々ニ呼ハ
 リタリ
 備十七日ニハ組手代等昨夜ヨリ同寮
 中相議シテ今朝ニ至リ漸ク決シタル
 ヲ以テ内々部部行へ上申ニ及ヒタル
 趣意ハ納粉五斗三升三斗挽ノ儀ハ松
 平丹波守時代ヨリノ例規ナレハ百姓
 共ニ違背致リセ間敷由ヲ申述タリ比
 等ノ迂濶ニテ時間ヲ費シ昨夕郡奉行

ヲリ受取タル大夏ノ書付百姓等ニ渡
 ス丁運刻ニ及ヒタリト云フ前ニ組手
 代共ニ閉門申渡ス一ヤ家老ノ令アリ
 テ未タ其妻ノ見ハカルハ如何ノ訣ニ
 ヤ
 却説百姓等ハ十四日ヨリ曝上土ニ整
 宿シ露霜破衣ニ滅シ寒風亦肌ヲ刺ス
 ト虽トモ一人ノ變動スル者ナシ赤徳
 望ノ帰スル所義勇ノ惑セシムル所カ
 烏合ノ大勢ト虽トモ嘉助其他ノ数氏
 ヲ將帥ノ如ク裨將ノ如ク能ク仰キ事
 へラ其指揮ニ背ク者ナシ故ニ数日市

中ニ在ルモ犯ス所有ルナシ。
茲ニ十七日ノ拂曉嘉助氏始メ諸氏大
衆ニ向テ云テ曰ク各人ノ兼知ノ通り
當時ノ役人ハ上下共ニ皆因循姑息ニ
メ莫ク果斷スルノ量ナシ故ニ今日ニ
至ルモ頼書ヲ取捨スルノ沙汰ナシ然
ラ綱様ノル埒アカスノ答ヲ待テ空シ
ク日ヲ過サハ徒ニ機會ヲ失フヘシ依
テ告輩教人江戸一出テ其勦ヘ訴詰シ
成否ヲ聞テ共ニ斃シレノミ因テ御尋
ハ一時比ヲ引拂ヒ吾等カ江戸ヨリノ
吉報ヲ待テレヨ又將東懲レノニ聊戒

ム一キ者ハ城下ノ枕屋ト稱スル用達
ノ町人ナリ元ニ斗五外枕ヲ三斗ニセ
シ源因ニ彼等カ誦詐ノ所行ヨリ生ヒ
レナリ彼等常ニ米ヲ盗レテ業トシ上
ニ向テハ百姓等ヲ悪口ニ枕カ無ト云
テテ口癖ニ唱ヘ愛情ニ疎キ役人等ヲ
欺クニヨル今般三斗五外枕ノ暴令ノ
出ルモ茲分カ具前牙彼等ニ臣ラサル
ハナシ因テ今朝大申引拂ノ以前ニ聊
カ懲戒スレシ御尋直ク立隊ニ分レ弟
一隊ハ伊勢町九左工門第ニ隊ハ同町
助右工門第ニ隊ハ同町平兵衛第ニ隊

ハ中町太兵工第立隊ハ本町立郎右工
門ニ遊ハレヨ而シテ近隣ヲ揺動セシ
ムル勿レト令終ルヤ否各衆吶喊地々
震テ立ケ右ノ立ケ所ニ赴タリ城内ニ
ハ此大衆ノ動クヲ見テスハ何事ヤラ
ント乍候騎ヲ出シ様子ヲ窺ハセケル
ニ百姓等各警場ニ赴キ米ヲ盗テ挽カ
無ト常ニ云レ忘テトテ其家澤ニ
乱暴ヲ働キ居ルヲ以テ斥候騎ハ及引
レテ其由原老中へ注進ニ及ヒケレハ
諸家中大ニ驚キ急令ヲ下メ四方ノ諸
門ヲ始メ木戸々々一人數兵器ヲ増シ

相

嚴重ニ備ヘタリ此時頃漸ク組手代等
ハ昨夜奉行ヨリ受取タル書付ヲ上土
ニ持テ行キ庄内山家岡田出川塩尻島
立成相上桢長尾保高松川池田ノ十二
組ハ一通宛渡シ我等同道ニテ帰^ルニシ
ト申謝シケル然ルニ各氏答ルハ大勢
ノ更故吾輩數人ニテハ何分返答致シ
難シ依テ是ヨリ大會議ヲ開キ明朝迄
ニ否ノ返答ニ及ベシト申述ハ直ニ立
ケ所へ傳令使ヲ遣シ立隊ノ中ヲ引揚
ケ大相談ニシ及ヒケル
諸十七日ノ夜ハ嘉助氏始メ其他ノ諸

氏ハ大申ヲ柳一昭ニ大會議ヲ開キ郡
奉ヨリ渡カレタル書面ヲ示シテ曰ク
今般訴訟ニ及タルハ諸君ノ知ラレ、
通り苛酷ノ極点タル五ヶ條ナリ其中
大概頼ノ通リニ間届テレシトモ三
斗五升挽ハ三斗拂半運輸ハ金沢ヲ塩
尻トセシ迄ノ丁ニテ此二個條ハ半額
ノ立シノミナリ而シテ書面ハ郡奉行
ノ判ナレハ後日ニ至リ家老共カ知カ
ル莫トメ及古ニエシノ詐謀ナルモ計
ラレズ諸君宜シク忌憚ナク存慮ヲ述
是否ヲ今夜中ニ決セテレヨト書面ヲ

數回讀聞セ趣意ヲ演旨致カレタリ
斯テ大評定、掛リケルカ百姓等ハ頼
立ノ大半間届キニ成リシト云フヲ以
テ心弛ニ氣挫ケ頼リニ帰情ヲ催シ殊
ニ遠ク慮ル者少ナキ故其書面ニテ満
足スル者百多ノ九十五六ナレハ終ニ
明朝組手代等ト帰村セシト云フニ決
シタリ此時十八日ノ午前三時頃ナリ
ト云フ
茲ニ又氏権家ノ十一士ハ別ニ小會議
ヲ開キ各自討論時ヲ移シタルカ嘉取
氏側席ニ向テ云テ曰ク諸君ノ論説一

々理ナキニ非スト。虽トモ債我輩ク今
田ノ奉勤ト地頭等カ之ヲ所置スル習
慣律ヲ思ヒコシ迄領主ノ制令ニ違背
スルノ訟訴ヲナシ或ハ是ヲ論議セシ
者一人トノ其身命ヲ全フセシ者有ラ
聞カズ其極終ニ泣児ト地頭ノ歎誌ヲ
吐カシムルニ至ル往年下総ノ國ニ佐
倉宗吉ナル者アリテ苛政ノ害ヲ地頭
へ訟ヘシカ採用ナキヲ以テ止ラ得ス
將軍家へ駕訴ニ及ヒシカ捕縛ノ後其
地頭へ渡サシ終ニ妻子迄棄布セラレ
、酷刑ニ辱セラレ夕リ吾輩諸君ト

契ルニ死シテ後止ノ約ナラスヤ今此
場合ニ至レハ退ク死進ムモ死ナリ何
リ進死ヲ捨テ進死ヲ取ンヤ此止我輩
議論ノ一歩ヲ進メニ斗立外挑ノ意現
ニ復シ書面ヲ家老共ニ出サセ其證據
ヲ確クシ後日遺愛ノ出ル源ヲ防テ領
内同胞ヲ飢餓ノ中ニ放ヒ此土ニ寸功
ヲ奏シ而シテ刑ニ就カハ豈又愉快ナラ
スヤ茲ニ於テナ一士ハ帰村ナカハル
下ニ決シ鐵石益堅ヲ加ヘ再訴ノ用意
ニリ及ヒケル
明レハ十月十八日早天組手代共十二

人來り帰村ヲ送シケル其姓名ハ庄内
組百瀬三七岡田組平林善兵工山家組
赤羽武兵工出川組丸山角兵衛塩尻組
赤羽太郎左工門島立組濱長右工門成
相組高木七左工門上整組中沢傳右工
門長尾組魔忠左工門保高組等々力傳
左工門松川組久保田左沿兵衛池田組
姓名不詳等ノ十二人ナリ
是ニ依テ百姓等ハ己ノ組手代ニ從テ
暫時ニ四散ナシニケリ然レ亦十一
士ニ從ヒ残ル者モ百五六十人並リケ
ルカ何故ニカ是モ午後ニ至リ不殘馬

喰町ノ橋詰一引揚タリ
借大甲八組手代等ノ帰村セシト虽モ
未百立六十人馬喰町ノ橋詰ニ群集メ
去テケル故郡奉行等下役ヲ遣シ帰村
セケル所以ヲ尋問ニ及ヒタルニ嘉助
氏始メ數氏相答ヘタル趣ハ今般御訴
訟ニ及ヒタル五々條ニ御家老以上ハ
知ラケル莫ノ由ニテ御聞届ニ相成タ
リ然レハ昨日御下ニナリタル書面モ
御家老以下ノ場ニテ御聞届ヲニナリ
タル御書面ナシハ后日又家老以上ノ
知ラケル莫トメ取消シニナルモ計ル

。身命。

可ラス是レ則ク昔輩カ安心シテ帰村
ナリ雅々所由ナリ又ニ斗五外枕ハ御
先規ナレハ我等教人。抑々御訴訟ニ及
ヒタル止ハ先年ノ法ニ御引戻ヲ願
誦方高遠ノ百姓ト生活ヲ同シク仕度
只今ノ残党ニテ再々御訴訟仕ラント
茲ニ會合仕候也ト相答ヘリ因茲使者
ハ直様引返シテ其赴家老中ハ言止ニ
及ヒケリ
城内ニ於テハ使者ノ報ヲ得テ嘉 equal
力強情ナルト其申立ノ理アルニ驚キ
再訴ニ及ハカル前ニ帰村ナカシメ江

戸表ノ風説ヲ防カン者ト直様一通ノ
書面ヲ認メ御使番三井孫太夫松本齊
石工門ヲ以テ百姓共ニ申渡サレケル
其面書ノ趣意ハ昨日頼ノ趣聞届ケル
ハ書付テ郡奉行ヨリ渡シタニ付百姓
共ヨリ又違背無之御請書返差止差上
ハ又々頼ノ儀有之ハ早々此場ヲ引キ
取り組手代ヲ以テ申出一レ依之家老
中ノ判形遣シタ云云十月十八日鈴木
主馬印奥田九石工門印山上与土石工
門印鈴木志摩印鈴木裁人印百姓中ハ
トアリ是ヨリ先己ニ帰村ナレタル百

姓共ハ組手代ノ差同ニヨリテ一通ノ
請書ヲ託メ庄屋頭連印ニテ各組ノ組
手代ノ場へ差出カセタリ其書面ハ今
度御訴訟ノ立ケ條頼ノ通り仰セ付ラ
レ推有奉存云云此上ハ御公儀様一
不足可申上儀無御座矣云云身享三寅
年十月十七日庄内組村々庄屋判組頭
判惣百姓判百瀬三七殿ト下リ其他ノ
組モ同文故畧ス
期ヲ十八日ノ暮合ニ至リ嘉助謹茂ニ
向テ日ク只今ノ書面ハ立ケ條悉皆同
届ケルノ明文ナシ是亦後謹トナス可

者ニ非ラズ諸君宜シク今一層進取
ノ氣カヲ張リ莫ク水泡ニ附セラズ死
ヲナヌ勿レト誦誅ノ最中へ又カ御使
番ノ兩人恭シク一通ノ書面ヲ捧ケ奉
り嘉助等ニ渡シ言テ曰ク先刻ノ書面
ニテハ百姓共安堵ノ場ニ至ル間數ヤ
ト御家老中ニ於テ御縣念在ラセテレ
テ犹ホ此御書付ヲ下シ置シタリ有難
ク頂戴アリテ早々歸村致カレヨ犹ホ
又是レト同文ノ御書付ヲ明日組々へ
相渡ルニ筈ナリ先々安堵致スヘシト
申渡カレケル嘉助謹シク是ヲ受取徐

口ニ押披キ朗誦スル立ケ條ノ類ヒ悉
ク御聞届ニ相成リタル明文アリテ家
中老連印ノ書付ナルヲ以テハツト申
ニ推戴キ魁ヘス落涙ニ及ヒケレハ外
十二人モ頭ヲ地上ニ方伏セ有雅涙ニ
咽ヒケル嘉助起テ百姓等ニ向ヒ大音
ニ云テ曰ク願ノ赴悉ク御聞届ニ相成
夕リ悦ヘケトト吟ハリケレハ大勢ノ
百姓共一度トトツト地ニ伏シテ嬉シ
涙ヲ拭ヒツ、両手ヲ合セラ拜ミケル
嘉助又云ケルハ各々ハ此御書付ヲ持
歸リ飢渴タル者共テ悦ハセヨ我等十

二人ハ是ヨリ御上ノ御法ニ従カヒ仕
置場ノ露トナリヌ一し只今生別レ死
別ナリトバラリト涙ヲ落シケレハ百
姓共ハ聲ヲ立テ泣カル者ハ無リケリ
茲ニ於テ十二人ノモハ御使番ニ向
ヒ語テ申しケルハ今般私共百姓ノ雅
義ヲ見ルニ悉ビス役人ヲ差置御訴訟
ニ及ヒ重キ御役人様方ノ御心ヲ慍シ
名上ハ御法ノ如ク我等十二人ヲ御任
置下サレテ外百姓共ヲ御助ケ下サレ
タシト各待罪ニ及ヒケレハ兩人申ケ
ルハ我等ハ其役目ニ非ス進テ何分ノ

沙汰アルハ先、比場ヲ立去ル
ハレト申サレケル故ニ士始メ百姓
等ハ勇ニ進テ各歸郷村致シケリ
借十八日ノ夜ハ家老諸役人相議スル
ニ孰モ江戸表ノ評判如何ヤアラント
心配トナリナリシヲ以テ夜中ナカ
ラモ又コト甚田甚田兵工、早チニ江
戸表へ出立致サレタリ是ヨリ先十六
日ニ岡島権平清水仁左工門ノ兩人出
立セシヲ以テ二度目ノ急飛脚ナリ又
夕刻嘉助等一渡シタル書付ノ同文ヲ
教十通証ノ派出、役人夫々手別ヲナ

シ夜ノ明ルヲ待ニケル其組々ハ派
出ノ役人ハ庄内岡田山家ノ三組ハ六
通大整与右工門山崎伊左工門麻績會
田ノ二組ニ四通岡田甚左工門響庭太
郎左工門大町組ハ二通池田組ハ四通
岡本孫右工門小林太右工門保高松川
ノ二組ハ四通原田彦兵衛小整利左工
門島立成相ノ二組ハ四通神谷与左郎
久整源五左工門上整長尾ノ二組ハ六
通奥村新五左工門三輪松石工門塩尻
出川ノ二組ハ六通加藤右石工門村瀬
文左右門ノ手配リニテ夜ノ明ルヤ否

ヤ若持場、し、一、リ、赴キケル
十九日、ミ、終、日、家、老、諸、役、人、ハ、相、談、区
々、リ、シ、カ、各、安、心、ナ、ラ、ワ、ル、件、々、ハ、先
第一、ニ、今、般、許、訟、ノ、立、ケ、條、ヲ、悉、皆、聞、届
ケ、タ、リ、ト、虽、モ、御、前、思、存、如、何、ヤ、ア、ラ、ン
第二、ニ、ハ、人、民、動、搖、ヲ、風、説、公、儀、ノ、御、聞
込、ニ、ナ、リ、シ、ヤ、如、何、ト、各、心、配、ノ、体、ニ、見
一、ケ、ル、カ、家、老、ノ、中、鈴、木、主、馬、ナル、者、園
席、ニ、向、テ、申、ケ、ル、ハ、各、ノ、憂、慮、セ、テ、ル、
通、リ、御、前、ノ、御、機、嫌、甚、夕、心、懸、リ、ナ、レ、ト
是、ニ、ハ、千、ト、嘉、計、ナ、カ、テ、一、策、ア、リ、先、ツ
之、ヲ、施、シ、テ、殿、ノ、御、機、嫌、ヲ、執、ル、ニ、若、ク

ハ、ナ、シ、而、シ、テ、其、策、ハ、如、何、ナル、術、ヲ、ト
云、フ、ニ、誠、ニ、崔、易、ノ、任、方、ナ、リ、幸、ヒ、百、姓
共、歸、村、メ、鎮、静、シ、タ、ル、赴、ナ、レ、ハ、頭、取、ノ
者、ヲ、捕、縛、シ、之、ヲ、獄、ニ、下、シ、而、シ、テ、家、老
ノ、守、一、人、江、戸、表、ニ、赴、キ、一、時、百、姓、等、ヲ
鎮、撫、ス、ル、爲、メ、一、ノ、計、畧、ヲ、施、シ、仮、リ、ニ
頼、ノ、赴、聞、届、夕、几、由、ノ、書、付、ヲ、渡、シ、タ、リ
然、レ、モ、空、地、ノ、傳、行、ハ、未、タ、ナ、リ、シ、ハ
此、上、ハ、如、何、取、計、テ、可、然、ト、御、前、ニ、御、同
ニ、及、ハ、何、分、御、指、全、有、之、一、シ、又、其、申
立、ノ、如、キ、ハ、ト、百、三、口、寄、云、云、ト、諾、リ、ケ
レ、ハ、家、老、中、ハ、夕、ト、手、ヲ、拍、是、ハ、奇、妙、ノ

名乗ナリ御苦守乍カラ貴殿江戸表へ
御出立被下へし我等國元ニアリテ召
捕ハ無波致スへし何卒、ト依頼致
シケレハ其夜午前一時頃ナリシカ直
梯其用意ヲナシ早駕ニテ江戸表へ出
立致シケル
借十月廿日ノ東天モ白ミケレハ家老
等ハ郡奉行ニ命シ頭取十二士ヲ捕縛
ノ用意ニリ掛リケル先弟一番手ハ同
心小頭井口源右工門組子十二人ヲ引
連中萱村ニ赴キ二番手ハ同心小頭荒
川俄七之モ組子十人ヲ引卒シテ捕利

ニ赴キ其他十二ヶ所へ夫々同心組子
共召捕ニ向ヒケリ却テ説一番手ノ取
手ハ嘉助氏カ家ニ致ルヤ表裏ノ口々
ヨリ御上意ニ、ト大音止ケ戸障子
ヲ蹴破リテ前後ヨリ踊リ込突丁捲テ
向ヒケレハ嘉助ハ少しモ動ズル色ナ
ク兼テ用意ノ泛容自若神妙ニ鑄ニ就
ケハ第房之丞突子ノ十造萬造モ續キ
居並ヒドット座シイサ同心宗御若乍
ラト手ヲ回セハ嘉助ノ妻ハ徘徊リ氣
丈大カラモ流石ハ婦人ノ驚ク目元ニ
潤テ涙見セシト隠ス袖サハモ紋ルニ

余ル心根ヲ押鎮メテ共ニ居並ヒ斯ル
憂目ノアラントモ良人ハソレト云ハ
サレド先日ヨリノ言ノ端ニ疾ヨリ尠
リシ妻ナレハ何ノ歎ヲ驚フ妻モ早ク
ト手ヲ回セハ嘉助ハ見ルヨリ色カケ
テヤイ狼狽ハタカ血送夕ウ昨日夕ハ
ヒ一通ハハソリ汝ヲ去タル離縁状ソ
レヲ取リタル上カラハ我夫デナイ妻
テナイ然レハ世カ無益ノ義理立ト聞
ヨリ女房立ヨリテエ、去メトハ何妻
ソ良人ノ血筋ノ人々ノ多クノ証氏
ヲ故コレ名譽妻ヲハ命ヲシテニ揮ヲ

破ルト見下ケ玉ヒ御心サト繩目ノ
袖ニ取付テ怒ノ涙ハラク落ル栗ノ
具隙ニ懐ヨリ出ス一通ヲ口ニ唾一ケ
一情ナシ嘉助殿昨日此書付ヲ妻ニ給
ヒシ身時ハ唯反古紙ト思ヒ故ニ仁
舞置シテ謹據トハ良人ノ心ハ鬼カ蛇
カ妾去テレタル尠ハヤイト口ニ啖裂
捨ハテレハ同心具レト見テ取テイヤ
嘉助去ツタト云テハ其方ノミノ申立
女房ノ體ノ如ク二人共ニ末ノ世マア
名譽ノ縁紙天晴ニトソレ組子共ハ
房ニ繩カヲトニ色ノ下ヨリ組子共ハ

捕夕、い、色諸共静々出ル一家族コ
レヤ此世ノ見救メト振返リ門口ノ壘
ニ漲ル涙ノ西晴ヲハレシヤ晴又白日
見ルハ立憲政体ノ後ノ世ナリト覺知
テ又悔ヲ茲ニ十歳ノ今ニ遺シテ年ニ
行リ
久賢ノ蔵日モ跨リ乘鞍マ花ニ存ヘル
蝶々哉常念哉ノ故妻ノ声サヘ絶ラ烏
羽玉ノ墨ニ帯ニ爾弔弱西ニ崎ワ一郷
ハ家墨郡ノ榎村トテ墨ヲラネド住吉
ノ神カ守レル一村落茂ル樹水ノ障洩ル
蓋葺屋根ノ倉構ハ云ハスト著ルキ

古百姓小穴善兵工カ住居ナリ家集放ニ
テ編揚筆リ床ニハ瓶子洗米糖於春ニ
膝ノ惣助身松石工門次兵工甥ノ長之
助態口ニ父兄ヲ響心傍ニ故ナク去ラ
レシ女房カ晴レヌ怨ニ種墨ル心ノ中
ノ想ニテ袖ニ絞リ控ヘケル子供心ノ
一思葉父ノ心ヲ魁メテ母ノ科ヲ故ハ
ント於春ハ側ニ手ヲ突クモ父上様
今度地頭ハ御新訟遊ハレタケ餘ノ
御願ニ恙ク御届間ニ成リシ上ハ此七
萬石ノ百姓ハ飢死ノ悲ニテ免レ命ノ
親シヤ故民神シヤト悦ヒ揮ムラアリ

マシヨウト云フニ續イテ第惣助サ
其救氏神孫シヤト人ニ云ハル、御牙
ニテヤセ母孫ニハ情カナイモ一堪忍
シテ上テ元ノ通ニ御人カ中能着シテ
私等ヲ育テ、給ヘ父止ハ左右ニ能ル
小供等ニ鉄石心ノ善兵工モ思ハス涙
ハテ、一、第二人モ諸共ニ袖ヲ覆ヘ
ハ女房ハセキクル涙押留メ本ニ思ヘ
ハ世ノ中、女ノ身程浅クシイ不幸ナ
者カアルヘキウセ去トエテノ控サヘ
巡理ト定メト思ヒシニ子迄ナシタル
中ヲカヘ去テモ能ト云フヤウナ世ノ

習慣ノ怨メシヤト袖ニ啖付所メニ夫
ヲ見ヤル露ノ玉トス青標ノ糸モ獨ヲ
増鏡曇テ又控ヲ立掻ク表ノ方ノ物音
ニソレソト悴ル善兵工ハ突立場リ大
音上ケ血筋ハ切シ又子共ヤ第情ナク
モ亦是非モナシ汝ハ去レハ赤ノ他人
アノ物音ハ必定捕手各ク用意ト呼リ
テ奥ノ一間ヘ入りニケル
後ヘ入来ル荒川儀セ教多ノ手下ヲ送
カ一テ門口ヨリ大音上ヤ一善兵工
今度比度立ケ條ノ非義ノ願ヲ申立一
味送竟ノ大賄物御家老中ニ氣ヲモ

エセ城下ヲ驢カス大罪人女房子共ハ
未タヲロカ第モ甥モ猶モ杓子モサ、
尋常ニ繩ニ懸レソレ組子共踏込ノ声
ヲ抑ヘテ静々ト一ト聞ラ出ル丈大夫
カ杖ニ連ル三岐ハ何ジモ劣テ又民権
勇者鼎足ナシテドツカト坐シヤア茲
レ罪人呼ハリ何ノ組子ノ驢ヲ待ンイ
カ繩方レヨ御役人ト自ラ回ス腕ト腕
同心手早ク繩方廻シ捕タノ声ニテ溜
息ヲキマツ三人ハ首尾ヨク捕タレト
小兵二人ニ女房ト甥カ一人有トノ囁
ソレ逃ヌナ組子共ト同章シノ下知ス

レハ善兵ハ声アラ、ケイヤ何同心卑
罪ナキ者ヲ誣ラル、ヤ吉々兄弟三人
ハ此七萬石百姓ノ餓死ヲ見ルニ忍ビ
又諸人ニ代テント兼テ寛情ノ此ノ釋
綫然レ共妻子ト甥ハ血筋ヲ切リ離別
ナシタル上カラハ若罪ニ連坐ヌ一キ
謂レテレ吉々兄弟三人ニテ其罪ハ頭
テニ是ラント云ツテ消レ同心ハイヤ
多言ヌナ善兵工三族ヲ夷クテハ後々
ノ心掛リ然レ女房ハ血筋ナラテハ去
リタル上ハ構ヒナレ娘ノ於者ト膝ノ
惣助甥長ノ助ハシテヤテネハナテ又

トノ御上意採レ繩立組子共ト傳テル
下知ニ手下ノ大勢莫丁ヲ打拵リ奥ノ
間目掛テトヤ、ト立入リモモナク
騒リ椽ノ下打レ引ル、小共ノ泣声ノ
一免シテ夕へ御奉行様逃ケモ隠シモ
セヌ氣ナレト母様諸共去ラレシ止ハ
我等ニハ罪カナイト父様カ云ハレヤ
ンレシ夕故比ノ椽ノ下ニ遊ンラ居マレ
夕隠シハセヌト父様ニ詫シテ縋テ下
カレセヌ卑怯ナ奴レヤト父様ニ叱ラ
ル、ノ力悲ヒト泣音モ低キ椽ノ下候
レ聞ク善兵工兄弟怒ル眼ニ血ヲ浮ヘ

溢レ瀧ル涙ノ雨流石ニ墜キ鉄石モ碎
クル斗リニ見エケル無残ナル哉頑
是ナキ子ヲ憐ニモ楓ノ腕ヲ荒縄ニテ
縛リ連ネテ引出シハ惡一兼タル母親
ハ物蔭ヨリ転ヒ出ハツト斗リニ泣沈
メハ善兵工ニメマツケヤリイラヤル女
ノ聲悲歎クモ泣モ今迄ノ妻汝ハ兼テ
云置通リ我々兄弟親子大人カ擔提テ
帛ヲ用意セヨムト答テ女房ハ緑ノ
黒髪切捲テ、甲斐、レシクモ蔵ニカ
ケ一家ニ傳ハル腰腕道具小脇、抱ヘ
走り出燈、投ケ出エ烟ノ中ニ炊ク白

飲盛リ振へ供フル心ハ千萬無量コシ
カ此世ニ在ル中ノ仕一終ノ飯莫カト
絶へ入ル中ニ捕手ノ役人サ、立ラキ
リく歩ミヲ口ウト使ス色ハ吾家ノ見
救メ涙ニ糸ム喜口新ル憂目ノ有ル里
ヲ誰カ住吉ト云ワラン親兄弟諸共ニ
刑場ノ小穴ニ朽ルトモ氏ヲ赦ヒ仁
愛ハ長尾組ノ楠村ニモ一人アリト
傳テハ後ノ世ニテ名譽ナリイサ御役
人キリく歩メ
備多田嘉助始メ頭取ナニ人ノ者共ハ
家族ニ至ル迄不残捕縛ノ止入牢トナ

リ其外荷籠シタル疑ニテ縛ニ就キ夕
ル人ニハ下堀金村平林金助大庭村西
方定兵工岡田村山田助左工門杏村金
井勘右工門水代村水代半之助耳塚村
草河三郎治矢原村無浅井弥助ノ七人
。テ是レ又監獄へ下カレタリ是ニ依
リ百姓等ハ自ラ安スル免ハカルヲ以
テ又勤推ノ朋等ヲ免シケレハ組手代
等ハ西ノ奔リ業ニ馳ケ而メ亦中連ニ
テ一ノ詐謀ヲ廻ラシ百姓等ニ諭メ曰
ク我輩御上ノ様子ヲ窺フニ立ケ條ノ
中ニ斗五外務ヲ強情ニモ申立シヲ以

テ御家老方大ニ怒リ訴訟ニ出タル百
姓ヲ不戮捕縛ニ及フトノ風説ナリ早
ク二度目ニ頂戴シタルニ斗五軒税ノ
御書付ヲ返止シ上下ノ安堵ヲ計ルヘ
シト嘆、諷シケルハ百姓等其意ニ任
セ即一書ヲ條ヘ返上ニ及ヒケル儀又
江戸表ニ於テハ早打ノ註進陸録
達スルヲ以テ卑人正忠直ハ其赴書面
ニ認メ周防守同道ニテ御扇子箱ヲ持
参リ但シ金子入老中大夫佐加賀守忠
朝ノ弟ニ至リ上申ニ致シケル其書面
ハ立ケ條ノ件々大異百姓共ノ申立ノ

如シト虽トモ眼目タル三斗五軒税ノ
更ハナク三斗税ヲ二斗五軒税ニ顯
ヒシ如ク取作り悉皆聞届ケルノ文意
ナリ但シ大文保加賀守相答ヘケル
ハ明日殺中ニ於テ此由同審一物詰リ
可致且又頭取ノ者所々儀ハ周防守
長門守年老タル故萬更談判ノ上執計
ヲ一シト被申シト云フ更ニ由ラセ三
日ニハ周島権平江戸ヲ出立シ甚赴松
本一達ス大五日鈴木主馬吉田甚立兵
工清水仁左工門江戸表ヲ出立ス茲ニ
又松本ニテハ大町組ヨリ書面ヲ以テ

申出ケルハ和共組五十四ヶ村、儀ハ
他組ト違ヒ特別ノ御仁政ヲ蒙リ今般
以訴訟ニ及ヒタル五ヶ條ノ如キハ當
組ニハ更ニ無之儀ニ付雅有御趣意ヲ
奉戴シ一人モ出訴ノ節罷出共者無之
矣云云ノ儀ヲト申致シタリ
却説江戸表ニ於テハ御扇子箱ノ功能
章シク顯シ國老中何レモ百姓共ノ訴
訟ハ非義ニノ國元家无共江戸表ヲ憚
リ一謀ノ下ニ鎮定セシハ治國ノ手柄ナ
リト忘^ル儀^スシケレハ忠直ノ悦ヒ一方ナ
ラズ先其首尾ノ赴テ書面ニ記シ早方

ニテ國元ハ申送りケル(其書面ノ趣意
ハ今般百姓共取上藉キ訴訟申出共處
我等番守故年寄共ニ役人共取計ニ相
鎮メ共儀尤、任方共依之御老中申、
手前ニ至極上首尾ナリ百姓共仕置ノ
儀ハ進テ可申進云云十月三日申人正
鈴木藏人致同志摩敷トアリ又一通ハ
大概同文意ニテ終リニ何時速ニ個様
ノ節ハ如此計アリ云云ト周防守宛
名ハ前ニ同シ
因茲地頭忠直始ノ家老諸役人ハ先、
安堵ノ場ニ至ルト云凡未夕人氣鎮定

ノ実ヲ見ザル故再登ノ憂ナキニ非ス
而シテ亦諸役人ノ中ニハ百姓ヲ塗炭
ニ苦シメタルヲ悔悟スル者モアリシ
ヲ以テ縣カ良政ノ端ヲ示キシト云フ
十一月一日馬廻リ申テ以テ組手代申
ハ布達ニ及ヒタル趣意ハ前方收納科
科目強ク致シ申由ニテ百姓共訴訟申
立多節該村ニ在リテカテ御註進不申
上殊ニ是近納方ノ仕法モ苛酷ニ致シ
致段不届ニ存スル共新手段ニテハ收
納難儀ノ由百姓共ヨリ申出多同閉門
差訴シ納方申付ルニ就テハ過不足無

之様遁今心ヲ用ヒ出稽致スヘク云云
先々モ申付多通り踏磨多儀堅ク無用
云云係レ秋ハ去リ納メ可申支以上
又同日家老中ヨリ郡奉行ニ達シタル
趣ハ左ノ書付ノ通り具組々ノ代官御
中ニ出百姓共ニ會款可之有云云
【其書付ノ大畧ハ三斗挽送感ノ由訴訟
致シ度後ハ、頼書ニ致シ差出サハ具
段御免中ニ取次致スヘシ殊ニ先日中
二斗五斗挽ノ書付兩度相下リ共
百姓共連判ニテ返上致シ共ニ付頼ノ
通三斗挽申付云云此度訴訟ニ出テ

ル村々ハ吟味ヲ遂ケ相違ナクハ書付
ヲ以テ可申出云云
呼々哀ナル哉義助氏以下十九人其家
族婦女子幼児ヲ合セテ十七人ハ獄中
ニアリテ悲歎ノ淚ニ日ヲ経ル中早ヤ
江戸表ニ於テ長門守周防守等評議ノ
上其處分ヲ定メ山上岡書秋元潭五共
工ヲ以テ國元へ申送りケル其処置ハ
頭十二人ノ中多田嘉助小穴善兵工小
松作兵工中野半之助九山善之助塩原
惣左工門三浦善七橋詰嘉助ノ八人ハ
磔堀木陣三郎九山与兵工赤羽金兵工

姓不詳左平治ノ四人ハ斬首梟嫌疑ニ
依テ進放ニ処スル者七人〔姓名ハ前記
ニ載セタリ〕家族ハ〔多田嘉助〕妻早氏実
子十藏万造第彦之丞〔善兵工〕実子於春
惣助第松右工門治兵衛甥〔松右工門〕子
長之助〔作兵工〕子兼松〔半之助〕子権之助
第佐女兵工〔吉之助〕子権太郎〔与作〕惣左
工門〕子三之助〔善七〕子勘太郎〔与兵衛〕子
麻兵工等十七人ハ斬首梟木ト定メ其
生所ノ安曇郡ニ属スル者ハ新橋一書
ニ勢高ニ作ル筑摩郡ニ属スル者ハ出
川ノ原ニ於テ仕置致スヘク旨ノ指揮

ナリト云依之家老家等ハ郡奉行ニ命
シ十一月九二日ヲ以テ仕置ノ日ト定
メ其用意ニリ樹リケル
是或ノ山又山ノ四方八面ヲ圍ニ間ヲ
工具中ヲ北ニ押切ル茶長井川清キ水
瀬ヲ濁ラシテ荼毒ヲ流ス水整家ノ暴
政ニ疲レ苦ム七万石ノ民百姓潤ヲ物
ハ健達ノ神乾クハ咽ノ老ニ先却ハ訊
ト、杜者ハ散シ荒タル整込ノ冬枯ハイ
ト、淋シヤ城山ノ裾整ケ原ノ仕置場
ヲ竹矢穿洞中ニ四本ノ磔柱並一ツテ
タルコナ夕ニハ白木ノ棚ヲ長クト駕

セシハ愧カ獄門臺南ニ向ケニ役屋根
ハ郡奉行ノ稜視小屋立沃汚ノ幕打回
シ左右ニ閃ク大身槍カクナニ掛ケシ
首切カハ民権議者ノ血ヲ注ク器ト見
ハテ憐レ也矢羅國ノ外ハ人ノ波打ヨ
ル中ヲフミ用キ叱吃ノ声ト諸共ニ入
リ来リタル稜使ハ水整家ノ大悪人製
歎非道ヲ莫トシテ民ヲ漁ル郡奉行日
根整徹兵工後ニ統イテ小島五郎兵工
供回ノ其後ハ移多頭大友為七車火
鉢ヲ手下ニ度カセ役目ノ場ニ着ニ
ケル日根野徹兵工ハ坐ヲ立テキヨロ

フク眼ヲ四方ヲ見廻シ今日モ最早日
ノ出罪人等ヲ引來ルノ邊ニハ流石
ノ嘉助ニ足腰カ後ケテ道ウ手間取レ
ルト見ヘタリイヤナニ地頭ト泣子ニ
勝ヲトスル奴衆ニ見セシメノ為ノ嘉
助善兵工ノ誠鬼共等ハナリ殺シカ
宜ラウト存ス竟殺ノ所存ハ如何テ御
坐ル左様ハ如何ニ夫力宜フ御坐
口ウノ語ノ中ニ夫罗國ノ外忽ケ顔マ
ル人声ニスハヤト見ヤル此方ヨリ屠
所ノ歩行ヲ促サレ詮方涙ニ進ニ奉ル
消世政政ノ人ハ身ヲ天帝ニ犠牲ニ

供ナル寛懐ノ白装束嘉助兄弟ノ其後
ハ母ニ送テ二人ノ子供後ニ善兵工
兄弟三人父ニ供テ於春惣助繩目ノ
脊ハ負ハレシハ松石工門カ子ノ長之
助統ヒテ作兵工親子ノ者後ニ役テ三
人ハ量レ半之助ノ親子同士ニ渡合セ
テ十五人夫大罗國ノ中ニ入りニケル憐
レ知ラヌハ可恨聖儀兵工刀搦ケ方リ
ヲ見回シ心地善クハセテ天ヒアハ
ハニ何ト嘉助生殺ケ奪ノ權ヲ握リタ
ル地頭一向ニ能ク推懸テ申掛ケタナ
ク最早此坐ニ直リテハ二十四仲挽ノ

ノ註々出マイカナ出ルナラモ一度云
 一テ見ヨト小面憎クニナフルニリ嘉
 助振リ向キ膝立直レヲ一此半ニ直レ
 ハ猶以テ伺レヲ憚ル所ヤアラニ汝カ
 如キ不文ノ吏ニ言註ハカスモ用ナレ
 ト古一聖賢ノ云ヒシ如ク震歎ノ臣ア
 テニヨリハ葦口盗臣アレトハ汝力更
 也セ方石ノ人氏ヲ塗炭ノ苦ニ一陷イ
 ル而レテ又主人ヲ遊樂度ナキ放蕩者
 ニ一陷レ上ヲ危フレ下ヲ虚ク此極ニ至
 ラレムル大崩吏ニノ吾ニ同盟カ人民
 餓死ニ代リ身ヲ犠牲トナスカラハ在

カ許証ノ通りニ為サハ格別在并左ナ
 クアルナラハ生直始メ一家中ノ奴系
 ニ一飢餓ノ見セテヤラン其時コリ思知
 レ頑悪者メトハワタト白眼怒リノ眼
 ニ一流石強悪ノ倭兵エ立郎兵エモ恐レ
 テ諾モナカリケル折カテカケ来ル一
 騎ノ使者小屋手前ニ馬ヲ止メ御奉行
 馬上御免某使者ニ趣キシハ余ノ倭ニ
 アラス此仕置場ニテ十五人ノ大勢ニ
 知刑ヲ施シ其上ニテ出川ノ原へ御越
 ニナルハ日ニ短日ノ折ナレト今日一
 日ニテハ滴シ難シ先ツ此ノ場ハ十島

氏。御任セアテ貴殿ニハ出川降ハ
御出張可然トノ御指揮御兼知ノ通り
アタラシク迄モ三放合セテ十四人其儀ハ
ハ当所ト同レ趣ナリイサ御早クト云
捨テ、馬ヲ踊ラセ立歸ル刀携ケ儀兵
工ハ立出テ小島殿御任セ申スソレア
ノナブイ殺ラ御志レアルナ何ノ御念
ニヤ及ハニイサ去ラハ後刻得マセウ
トノワサリト立出シハ嘉助善兵工
色ヲ掛ケヤアミ儀兵工今生ニテハ
汝カ面ノ見收メナルカ訴訟ノ如ク此
上ハ永世ニ斗五斗挽ナルヲウハミ

其ニ斗五斗挽人汝等ノミ申テモ外百
姓等ハ三斗挽ヲ直イトテ其書付ハ返
上シテ仕舞夕ナニ書付テ返上シタホ
ウウヌラカ牢ハ遠入シ翌日十二組ヨ
リ不残出シタ三斗挽ヲ生坐セセケト
云ハレテ四人ハ無念ノ涙拭フ手サハ
モ繩目ノ悲シサナリ残念口惜ヤナリ
又、紐手代等ノ論諷根性ノ欺謀ニカ
・リ恐レテ夫ヲ返セシヨナリオ、ヨ
レノ書付ノ有無ニ拘ハラエ命ヲ推ル
上カテハ二斗五斗挽ノ回現ニ見セ
ン儀兵工返歸シテ去レ兼リテ逝ハ

間ヨリ儀兵エハクワトセキ揚ケニ足
三足立帰リナニ書付ノ有無ニ拘ハラ
ストハオ一何ノソレニ拘ルヘキフ
ニ尚何ヲ以テ證據ニオソソレハサ
ト手フ中一以前ノ使何ヲ手前取日根
聖殿サアノ早クト任サレ使者諸共ニ
出行後見送テ本郎兵エハ為セニ方尚
ヒアイヤ為セ最早時刻モ移シハ處刑
ニ取り掛レヨハ、其前引立来リニ順
何任ランエ、ノ最前引立来リニ順
ヲ半之助カ家族ヨリ斬罪ニナシ又其
順ニテ本人ハ磔ハ、兼知仕夕リ然ラ

ハ処刑ニ取掛ラレヤアノ者共四人ノ
者ヲ柱ニ繫キ布連ラネタハ荒蕪ニ事
ヤ弟ヤ子共等ヲ兼テルヲ見ル人々ノ
心ノ中ノ苦ニハ一百三十六地獄ノ苛
責ヲ一度ニ受ルトモ是ニヤ如何テ増
ルヘヤ半之助ハ涙握拂ヒアノ権之助
悦ンテ往生セヨソノタノ命ハ七万石
ノ氏百姓ノ餓死ニ代リテ今日死ヌル
ノレヤソアイノ何ノ死ルカ惜カロウ
吾等死ルニ由テ大勢ノ人カ助ルナラ
ハ私シヤ誠ニ嬉々ソフシマケレモ最
前母孫カ見物ノ中ニ居カシヤンシ夕

改最一度逢夕イト思夕ラツイ涙カ出
テ目カ腫レヲモト見ヘ又夕ツ夕一度
茲一呼ンテ逢ハメ下サリマセ死ヌル
今端ニ母様ノ御膝ガマ一度抱レタ
ト泣出ス子ヨリ十字架ニ見ル父親ト
央羅固ノ外ニ母親ハ泣音血ヲ吐ク水
無月ノ死出ノ夕ヲサノ苦ミヲ見セジ
ト包ム心根ハ推量ラレテ憐レナリヤ
刀兼テ云ヒ何レ莫忘レ夕カ彼女人去
リタル上ハ女房デナイ妻ヲナケレハ
ソケノ爲メニ母様ヲモナイイヤナニ
下ノ中片時モ早ク其悲ミヲ楽ミシラ

ヤソテ下サイマセト云ヨリ下役人立
揚リ掛ケシカヲ扱ハナクイヤ権之ヤ
寛格ハヨイヤ称名セヨアイモト死ヌ
ルヲ御坐ンスケ皆掃ヲ先一御免南無
阿ノ声ト諸共ニ首ハ前ニ落ニケル
央羅固ノ外ノ見物ニ其坐ニ居並フ人
々モ一度ニワット泣叫フ憐ヲ余所ニ
下役ハ刃ク血カ振カサレ序ノ終ニ斬
屠シハ四人ノ親ハ目ヲ閉テ心ニ杵フ
ル念佛ニ咽喉ニ咽フ苦ミヲ稚心ニ見
テ取テ背ニ負リシ長之助ハ泣顔場ケ
テモン叔父サン巳レハ気強テ泣又哀

實 = 何ヲ下カリコトス已ハ泣キトホ口
くト泣キ稚子ノイナラシサ母ハ矢羅國
= 取籠リ蕭後正体泣叫フ嘉助ハ涙ノ
目ヲ見開キ嗚呼嬉シキ心地ヨヤ数午
万ノ餓死ヲ僅カ此子弟等ノ命ニ約メ
一ト思キリニ死ナレハト思ハハ是
= 過タル悦ヒナレハ是レ見物共頼
ヲ達セシ其罪ニテ此ノ如ク物心ニ恥
エ子共近非業ノ最後ヲ遂ルカテハ自
今永世此七万石ノ收納ノ法ニ詭方高
遠ノ年重ノ如クニ廿五姓挽ノ立合摺
ナルソ悦ンテ逐緝セヨ百姓共逐緝セ

ヨ百姓共ト呼ヲ止メテ嘉助カト妻ハ
涙ヲ拂ヒ振向テ此子共等ノ亡灵ハ冥
途ノ旅ヲ逝ルトモ吾々夫婦ノ魂魄ハ
誓テ此土ニトメ置キ吾々己後ニ地頭
等カ法ヲ改ルヤ否ヲ見シト一ト女房
ヨク云フ夕人ノ最後ノ一念ニ依テ善
悪ノ性ヲ引クト云フ昔レ今死後ノ性
ヲ改メ暴政ノ地頭ニハ悪魔トナリ人
民ノ為ニハ善神トナラン見物共此嘉
助カ魂魄此城内ノ天守ヲ見ヨ北一
地頭カ位ハ城内ノ天守ヲ見ヨ北一
クテアラハ灵魂赫字ト有ルト知レ又

遠カラズ其灵験ノ謹揚ヲ見セント言
葉ノ中二十一人血汐、煙リトナリニ
ケリスハ四人ノ碑ト天罗周ノ外ノ数
万人涕吞込声ノ外物音モセヌ此方ニ
ハ十字ニ後取白袴脇ニカイ込又身鏡
半之助カ左右ニスフト立シコク鏡ノ
柄アラクノ声諸共ニ眼前ヲ突閃カス
ニ^本鏡忽々貫ク右左アリト一声半之助
派血淋漓然シル眼見張テ捨テ次ニ
作兵工次ニ善兵工次ニ嘉助ト迫リ来
ル其血煙ヲ受テセヌ徒容自若ノ顔色
ニテ矢野國ノ外ヲ見回シテ是レ百姓

共耳ヲ突ケ心ヲ鎮メ成嘉助カ最後ノ
一語ヲ兼レ成度頼ノ筋悉ク立タルヲ
以テ今日已ニ刑ニ就汝等カ誠知、代
ルニノ二十九人ナリ茲ヲ以テ收納位
ハ自今以後五斗入ニ斗五斗挽ナルゾ
ト吟ハル声、終ルヤ否血汐涌ル大身
鏡穿立レハ湧出ル血汐ヲ見モヤラヌ
ヤイ百姓共ニ斗五斗挽立合摺ナルソ
ニ斗五斗挽立合摺ナルソト若ニ呼ハ
ル夕ニエマテ又モ右ヨリ突込一槌今
ハニ迫ル声張リカノテ百姓共立合摺
夕、夕、夕、夕、夕ト次第ニ細ハ声

諸共草塚ノ露ト清一ニケル矢羅國ノ
外ハ泣叫ノ老若男女ノ色々ハ音重リ
テ郎ヲカニリシト性ニ分タネト南無
信名多田嘉助頓生菩提南無阿浮陀備
ト呼フモアリ具外各ノ名ヲ呼テ唱
テル念佛科名ノ夷ク色モ老レナリ
信ニ十九人ノ首ヲ急クニケ所ノ獄門
臺ニ列ヘ推孔ヲ掲示シ之ヲカテレ胸
体ヲハ闕半石工門加藤彦太夫ノ二人
ニ命シ牢舎ノ前一運ヒ比度ノ変件ヘ
関係シタル役人共一差科ノ刀ヲ試シ
ニ供ス一ク申渡カレタリ其次弟ハ三

奉行ハ胸斬目附中ハ巻袋斬代官中ハ
脇下斬ト是ノ各一カ宛之ヲ試シ残リ
ノ死体ハ家老中ニテ斬リ刻ニ各自室
カノ切味ヲ試シタリト云フ
茲ニ於テ十二士ノ家ヲ廻処トニ動
不勤ノ財産ヲ没入シテ更ニ互組ノ
組手代庄屋等ニ下シ給ヒシト云フ
信ハ八日ニハ廿九人ノ首ヲ其近親
下附ニ埋没スルヲ免サレタリ茲ヲ
以テ各親類ノ者首ヲ獲ヘ帰り僅カニ
其墓墳ノ地ニ埋ムルヲ得タリ是ヨ
リ先キ嘉助善兵工ノ首ハ夜中持歸ト

其時善人ノ者之ヲ知ルト云凡答ノ
ナリレ

○ 浩更承頼居士 多田義助

○ 瓜屋妙實大姉 妻 某氏

○ 山霜兼知居士 弟彦之丞

○ 多藏真田居士

貞享三丙寅年十一月廿八日

○ 善安正智居士 善兵衛

○ 松原清寒居士 松石工門

○ 次庵了心居士 治兵工

經濟學部
研究室印

○ 空雪宗安信士 作兵衛
○ 松田夢童子 葉松

GANSHODO-SHOTEN
KANDA TOKYO
町 神 京 東
店 書 堂 松 巖

